学校法人支倉学園

事業報告書

令和４年度

目次

Ⅰ　学校法人支倉学園

ⅰ	沿革	2 － 3
ⅱ	設置する学校等の所在地	3
ⅲ	役員の概要	3
ⅳ	評議員の概要	3
ⅴ	理事会・評議員会の開催状況	4

Ⅱ　ファッション文化専門学校 DOREME

ⅰ	学校の教育目標	4
ⅱ	設置する学科と学生数	5
ⅲ	教育の充実	6－8
ⅳ	学生募集	8―9
ⅴ	学生支援	9
ⅵ	就職支援	10
ⅶ	教職員の概要	11
ⅷ	施設・設備	11－12
ⅸ	地域貢献・社会貢献	12

Ⅲ　めるへんの森幼稚園

ⅰ	園の教育目標	12
ⅱ	募集人数	13
ⅲ	在園児数	13
ⅳ	教育の充実	（別添資料参照）

Ⅲ　財務の概要　（別添資料参照）

Ⅰ　学校法人支倉学園

和装から洋装へと歴史的な転換を果たした先駆者のひとり故杉野芳子先生の教育精神を慕い、昭和１５年に初代校長菅野貞子が「宮城ドレスメーカー女学院」（現ファッション文化専門学校 DOREME）の看板を掲げた。当時は和服姿の生徒に正しい洋服の縫製や着こなしを指導するために、洋服の下着作りから始めなくてはならなかった。その後太平洋戦争では材料不足や軍からの圧迫を乗り越え、戦災を受けた焼け跡から初代理事長菅野忠雄と共にミシンを掘り起こして授業を再開した。昭和５５年には学校法人の名称も、江戸時代初期に海外に雄飛した支倉常長の壮図にちなみ「学校法人支倉学園」とし、未来にはばたく人材を育てるような教育を実践してきた。翌年には泉区加茂に「めるへんの森幼稚園」も開園し、奉仕の心で世の為に喜びを還元しようとする精神の元、支倉学園の発展の礎石をゆるぎなく確立させてきた。さらにファッション業界のニーズを読み取り、平成２２年には昭和５６年より続いていた「専門学校創表現研究所 est」を統合。洋裁だけにとどまらず、ファッションビジネスやメイクアップ、ジュエリー制作等を通して現在も更なるファッション人の育成に尽力している。

本学園は、自分の目と頭と体と感性を使い、作業、行動を通して、創造し自分で考えることのできる若者を育てることを目標とし、技術だけでない人格教育に力を注いできた。また、昨今の社会情勢を鑑み、教育の底流にある人間教育、思いやりや相手を尊重する気持ちを育てる教育について学園をあげて取り組んでおり、努力・礼節・明朗をモットーに徳育を重視した専門教育と幼児教育を行っている。

ⅰ　沿革

年月	概要
昭和 15 年	仙台市一番町に宮城ドレスメーカー女学院創立
昭和 18 年	戦時下のため宮城洋裁女学院と改称、芭蕉の辻に校舎移転
昭和 20 年	仙台空襲で校舎全焼失
昭和 21 年	仙台市連坊小路に再設立
昭和 24 年	仙台市常盤丁に校舎設立
昭和 26 年	私立学校法による「学校法人」に組織変更昇格
昭和 44 年	仙台市支倉町に宮城ドレメビル完成
昭和 51 年	専修学校制により宮城ドレスメーカー専門学校と改称
昭和 55 年	創立 40 周年を迎え「学校法人支倉学園」と改称
昭和 56 年	泉区加茂に「めるへんの森幼稚園」創設 学校教育法第 1 条校に昇格
昭和 57 年	仙台市支倉町に「専門学校ファッションビジネスカレッジ」設立
昭和 60 年	「ファッションビジネスカレッジ」を「創表現専門学校 est」に改称 向陽台高等学校技能連携指定校となる

平成 16 年	校名を「ドレメファッション芸術専門学校」に改称
平成 22 年	「専門学校創表現研究所 est」を統合
平成 26 年	校名を「ファッション芸術専門学校 DOREME」に改称
平成 29 年	校名を「ファッション文化専門学校 DOREME」に改称
令和 2 年	ドレメ創立 80 周年、めるへん創立 40-周年を迎える

ⅱ　設置する学校等の所在地

【法人本部】【ファッション文化専門学校 DOREME】

〒980-0824　仙台市青葉区支倉町 1 番 33 号

【めるへんの森幼稚園】

〒981-3122　仙台市泉区加茂 2 丁目 24 番 2 号

ⅲ　役員の概要（令和 2 年 6 月 1 日現在）

【理事】　定員 6 名　現員 6 名

理事長　菅野　敦子（ファッション文化専門学校 DOREME　校長）

理　事　伊勢　千春（めるへんの森幼稚園　園長）

理　事　小幡　賢二（有限会社コラボレーション・マル　代表取締役社長）

理　事　菅野　麻那（学校法人支倉学園　法人本部長）

理　事　檀崎　孝志（株式会社エクシード　取締役）

理　事　丹野　敏夫（司法書士・行政書士）

※選任根拠条文・50 音順

【監事】　定員 2 名　現員 2 名

監　事　丹　　義秀（遠山青葉印刷株式会社　代表取締役副社長）

監　事　菊地　英子（会社役員）

※選任根拠条文・50 音順

ⅳ　評議員の概要

【評議員】　定員 16 名　現員 16 名

菅野　敦子　　伊勢　千春　　小川　恵美　　菅野　一磨　　菅野　麻那　　西條　綾子

佐竹　恵子(～令和 4 年 5 月 3 1 日)　荒井　咲子（令和 4 年 6 月 1 日～）　中村　武好

及川　壮也　　檀崎　孝志　　豊島　文彦　　尾崎　行彦　　小幡　賢二　　武井　教使

丹野　敏夫　　針生　庸一

※選任根拠条文・50 音順

ｖ　理事会・評議員会の開催状況

（１）令和４年度理事会の開催状況は以下の通りである

	開催年月日・開催時間	出席	委任状	欠席	監事の出欠
第１回	令和４年５月31日 14：00～15：30	６人	０人	０人	1/2
第２回	令５年３月30日 16；00～17：00	６人	０人	０人	2/2

（２）令和２年度評議員会の開催状況は以下の通りである

	開催年月日・開催時間	出席	委任状	欠席
第１回	令和４年５月31日 13；00～14：00	15人	１人	０人
第２回	令和４年５月31日 16；00～16：30	15人	１人	０人
第３回	令和５年３月30日 14：00～15：00	16人	０人	０人

Ⅱ　ファッション文化専門学校 DOREME

ｉ　学校の教育目標

創立８０周年を迎え、社会と共生する教育機関として、創立者菅野忠雄、貞子の理念を継承し、未来に向けての若者たちの育成、新たなファッション人の育成に更に尽力する。オリジナル性の高い専門教育サービスを提供し、未来を創造する感性・発想力を備えた創造的表現者を育成する。

Dream（夢力）：学生一人ひとりの夢に向かって夢と目標に近づきます。→将来に向かって夢を実現するための努力を惜しまず、日々向上できる精神力と実行力を持つ人

Revolution（革新力）：自己変革、新たなる破壊と再構築。自主自立。立ち向かう強さを養い表現の自由を追求します。→自己変革、革新を忘れず、発送の豊かさや表現力に磨きをかけ、常にチャレンジする人

Message（発信力）：若い感性と創造性を「心」と「かたち」で伝え、すべての人たちに幸せになってほしい気持ちを込めて努力します。→世界や文化に目を向け、ファッションにできる事を発信し、明朗活発に率先して行動する人

本校のアドミッションポリシーを再確認し、学生だけでなく職員もが日々成長していける環境作りを徹底する。そして学生達の夢と希望を叶えられるよう、企業と連携し、実践的な教育を実施し、時代が要請する高度な専門性を持った即戦力となる人材を育成する。

【本年度に定めた優先課題】

・入学生数の増加(1 学年 50 名)を全職員の目標とする。

・オープンキャンパスの充実化と魅力ある学校作りのアウトプットに尽力する。各種 SNS やメディアとの連携を深め、学校外への露出を増やして、学生獲得につなげる。

・AO 入学制度の宣伝を強化し、早期の学生獲得、やる気のある学生獲得を実現させる。

・服飾、ファッション教育の伝統校としての学科教育内容、企業と連携した各科目における実践的な教育の実施、企業実習、演習、企業の講師による講義など業界で即戦力となる学生を育成する。

・ファッション業界に必要とされる基礎的な知識、技術、感性は、もちろんのこと、カリキュラム、企画、生産、販売へと流通業界にも通じるファッションビジネスにも力を入れ、専門的、創造的な職業人と人間教育の場として更に確立する。また、「今、ファッションにできること」をテーマに、地域の産業振興に寄与する。

・コロナ禍における就職難を乗り越えるべく、学生就職支援に尽力する。

・退学者を減少させるべく、手厚い学生サポート体制を敷く。退学を決めてから知るのではなく、不満や不安要素の段階で解決できるよう、ヒアリングと職員間の連携を強化する。

・学費納入については昨今の経済状況と東日本大震災の影響により厳しいものがあるが、特待生制度や入学時における授業料の減免制度を周知していく。また、高等教育の修学支援制度を活用し幅広い学生支援で、経済的に困窮している学生の救済を行う。

・職員の職場環境も改善し、必要な部門に手が届くような仕事分配をする。ムリ・ムダ・ムラの３M を取り除き、古い風習や体制を変革していく。

・次世代職員の採用、育成強化。

ⅱ　設置する学科と学生数

＜R4 年度学生数＞

学科	修業年限	昼夜別	入学定員	入学者数	総定員	在籍者数		
						計	男	女
デザイン造形学科	2	昼	20	19	40	34	3	31
スタイリスト学科	2	昼	5	3	10	9	2	7
ファッションビジネス学科	2	昼	15	17	30	27	12	15
アーツ&クラフト学科	2	昼	5	2	10	2	1	1
クリエーター学科	1	昼	5	6	5	6	2	4
服飾デザイン学科	2	夜	募集停止中					
合計			53	47	101	78	20	58

※令和 4 年 5 月 1 日現在の数値であり、学校基本調査(文部科学省)の数値と一致する。

＜R5 年度学生数＞

学科	修業年限	昼夜別	入学定員	入学者数	総定員	在籍者数		
						計	男	女
デザイン造形学科	2	昼	20	24	40	39	5	34
スタイリスト学科	2	昼	5	6	10	9	1	8
ファッションビジネス学科	2	昼	15	19	30	32	13	19
アーツ&クラフト学科	2	昼	5	2	10	3	1	2
クリエーター学科	1	昼	5	4	5	4	0	4
服飾デザイン学科	2	夜	募集停止中					
合計			53	55	101	87	20	67

※令和 5 年 5 月 1 日現在の数値であり、学校基本調査(文部科学省)の数値と一致する。

ⅲ　教育の充実

＜ファッションの専門教育とキャリア教育を融合した教育課程＞

入学
【AO 入学、特待生、ファッション特待生】

⇩

1 年次

ファッションの専門知識・技術・感性を徹底的に学ぶ	社会人基礎力・コミュニケーション能力を養う(キャリア教育・行事)
学科別授業	校内企業ガイダンス、特別講義
各種検定、デザイン画、造形デザイン	進級制作発表会

⇩

2 年次

アドミッションポリシーの体現：Dream/Revolution/Message を実現させる社会人の育成。学生自らが主体的に考えて行動する。
キャリア教育：学生１人１人に合わせたキャリアプランをキャリア教育担当者の面談を基に作成。細やかな支援を実施。
卒業制作：学内統一テーマ【Reincarnation】を基に各自の作品を計画的に制作、プレゼンテーションスキルや企画書制作スキルも養う。
ファッションショー：せんだいメディアテークにて大規模ファッションショー。学生主体で制作・運営する過程から、主体性を身につける。

【アドミッションポリシー】

Dream（夢力）：将来に向かって夢を実現するための努力を惜しまず、
日々向上できる精神力と実行力を持つ人

Revolution（革新力）：自己変革、革新を忘れず、発送の豊かさや表現力に磨きをかけ、
常にチャレンジする人

Message（発信力）：世界や文化に目を向け、ファッションにできる事を発信し、
明朗活発に率先して行動する人

①教育指針

創立 80 周年を迎え、改めて本校創設者菅野貞子の生きざまを顧みた。約 80 点もの菅野貞子コレクションを修復、整理し、公開することで、改めて彼女の強いバイタリティーと先見の明を感じることができた。時代が移り変わっても「ものづくり」や「ビジネス」の現場において、「向上心」は大変重要である。知識や技術だけでなく、自らが高みを目指し、それに向かって努力する姿勢を養わねばならないのである。そして菅野貞子は非常に「対人能力」も高かった。コレクションに使用した生地は海外から特別に取り寄せたものだったり、アシスタントスタッフは全国各地集まったりしていた。それはファッション業界で大変重要なことであり、時代が進むにつれコミュニケーション能力と名を変えて、ファッション人の必須スキルとなった。
本校のアドミッションポリシーに掲げる Message は発信力とし、本校で受けた専門教育を世に発信していくことのできる人材を育成したいという想いが込められている。本年度はこの Message を学校目標とし、向上心とコミュニケーション能力を育成する教育プログラムを実施する。その結果として就職率・進学率を判断基準として、充実したキャリア教育に取り組んでいく。

②令和 4 年度における特色ある教育活動

■企業とコラボレーション・SDG s への取り組み

→ＢＯＯＫＯＦＦとの協力のもと、「リユースフェス 2022」に参加。廃棄される古着を再構築した服でファッションショーを行った。ぶらんど～む一番町のアーケードの野外ステージで開催された為、多くの市民の目に触れる機会をなった。リユースフェスは令和 5 年度も継続開催の予定であり、引き続きファッションの魅力発信とＳＤＧｓに取り組んでいく。

→TOHOKU　COTTON　ＰＲＯＪＥＣＴ、宮城県東松島市の綿花畑にて収穫の手伝いをした。東日本大震災の際に津波で塩害被害を受けた畑を、塩に強い綿花畑に作り替え、今も多くの綿花を出荷している。服飾業界の川上を担う、綿花産業を見学することができ、学生も多くの学びを得た。

■縫製工場との連携強化

→岩手県二戸市にある二戸サントップにて 3 日間の滞在型インターンシップを開催。今後も産学共同を強化する。

■縫製工場との連携強化

→本校併設のショップ実習室にてオリジナルショップを開店。ファッションビジネス学科 2 年制やクリエーター学科の学生が期間限定で古着屋やアクセサリーショップを開店した。近隣住民や高校生が数多く訪れ、コロナウイルスが落ち着いていたこともあり、過去最高額を売り上げた。

■ＧＲＡＤＵＡＴＩＯＮ　ＥＸＨＩＢＩＴＩＯＮ2023

→昨年度はコロナウイルスの影響により、開催を見送ったファッションショーを無事開催することができた。席数は半分に制限し、完全予約制にて開催したが、全公演満席、各種メディアにも取り上げられ、広報効果も大きかった。

■靴作り

→アーツ&クラフト学科のレザワークの授業に靴作りを取り入れた。仙台市出身の世界で活躍されているシューズデザイナーの三澤則行氏を講師に迎え、1 年間で 1 足のオリジナルシューズを制作した。また、三澤氏にはファッションセミナーでの特別講師もお願いし、ご自身の経験やデザインについてお話いただき、学生達の刺激となった。

■学生も教える体験を(プレスクール)

→学校広報の一環として入学希望者を招いて、授業体験をしているが、学生にもアシスタントとして人に教えることの難しさ、喜びを体感させ、モチベーションを向上させる。

ⅳ　学生募集

①AO 入学の継続

学生の早期獲得と入学後のミスマッチを防ぐために AO 入学制度を継続。

本校を専願とし、出願者本人の個性や意欲などの人物像を、本校が求める学生像に照らし合わせて合否を決める。合格後はオープンキャンパスの複数回参加とレポート等の提出、特別授業を通して、入学準備を進める。

→今年度は昨年度(22 名)よりも多く 24 名応募、全員合格、22 名入学した。

→入学決定後何度かの面談を通して学科変更をするものもおり、ミスマッチを防ぐことができたといえる

②オープンキャンパス

オープンキャンパスの参加者が大幅に増加した。大型の学校見学会では 6 月が 21 名、7 月が 20 名の参加で、そのうち実際に入学した生徒の割合が 7 月においては 81%となっており、大変重要なイベントと言える。また、毎月開催しているプレスクールも入学者の割合が合計で 74%となっているため、今後も質の高いオープンキャンパスを提供していく必要がある。

同分野の競合校はより一層募集活動に力を入れることは必然であり、本校も募集活動のより一層の向上が必須である。出願対象者から厳しい目で競合校と比較検討されることを考え、本校の強みの伝え方に工夫が必要である。教務と広報担当者との連携が

必要不可欠であり、より一層協力体制を敷ける様、教職員の意識改革に臨む。

③結果と課題

前述した教務と広報担当者の連携はもちろんのこと、体験入学参加者の母数を増やすことは継続した課題であり、メディアとの連携や地道な SNS の更新も重要である。効果的な広報方法を精査し、伸び率が期待できる方法に注力していく。また、高等学校との信頼関係構築は学生募集には欠かせない重要部分である。高等学校に出向いての模擬授業は効果的であり、今後一層力を入れるべき部分である。今年度は AO 入学 24 名合格したが、退学者のうち多数がＡＯ入学者であった。原因としては、発達障害や精神障害を抱えている学生が多くＡＯ入学をしていることが考えられる。入学後の学生の精神面のケアも必須課題となった。

ｖ　学生支援

①退学者

学科名	退学者数	理由
デザイン造形学科	4 名	精神的疾病
スタイリスト学科	1 名	進路変更
ファッションビジネス学科	5 名	進路変更、学業不振
アーツ＆クラフト学科	1 名	精神的疾病
クリエーター学科	0 名	

※令和 5 年 5 月 1 日現在の数値であり、学校基本調査(文部科学省)の数値と一致する。

②結果と課題

前年度比ほぼ横ばいである。元々高校時から不登校であったり、オープンキャンパス未参加で、学ぶ意識の不明確な学生も多く入学している。本年度は特に精神的疾病を抱えている学生が多く、入学後すぐに不登校というケースが多くみられた。ジェンダーやメンタルヘルス等、配慮の必要な学生は出願段階では分かりかねる悩みを抱える学生の対応を検討せねばならない。高校時に欠席が著しく多い学生や、オープンキャンパス未参加の学生には、入学前面談を実施しているが、強化が必要である。入学後はクラス担当制を実施しているため、細やかな面談を行い、人間関係問題や本人の悩みの早期発見に努めている。また、宮城県障害者就労支援センターと連携を取り、教職員のメンタルヘルス研修も実施している為、今後も継続して、せっかく夢を持って入学した学生達を精一杯支援していく。

③学生会「ドレメゾン」の充実

入学生アンケートにより、ドレメの進学の決め手で最も多かったのが「行事の充実」であった。本学の SNS での行事発信の効果が高いことが分かった為、コロナ禍でも

開催できる行事を増やし、魅力的な発信方法を検討する。

v　就職支援

①就職率

学科名	卒業者	就職者	未決定	進学	就職率
デザイン造形学科	15	11	0	4	100%
スタイリスト学科	5	5	0	0	100%
ファッションビジネス学科	9	9	0	0	100%
アーツ＆クラフト学科	0	0	0	0	100%
クリエーター学科	6	4	2	0	66%
計	35	32	2	4	93.2%

※就職希望者=就職者+未決定者

※就職率=就職者÷就職希望者

②主な就職先

㈱ビックママ、劇団四季、㈱パル、まるやま京彩グループ、ゴールドフラッグ㈱、㈱オズファインクロス、㈱福装２１、㈱平鹿サントップ、岩手三和ソーイング㈱、ギャップジャパン㈱、㈱大淵銀器、トリンプ・インターナショナル・ジャパン㈱、㈱シティーヒル、福島産業㈱　他

③結果と課題

コロナ禍とはいえ、希望者は 100%で終わることができた。オンライン面接時の注意点やメイクのポイントなど各学科で力を入れて指導できた結果が出たと言える。また、厚生労働省主宰のジョブカードセンターとも連携し、入社後も辞めない人財の育成に力をいれた。キャリア形成を考えたうえで、入社後のマナーやコミュニケーションスキルの構築などの社会人教育も行っており、本校の売りになるような手厚いサポートを継続している。学生の傾向として、関東や関西を避け、地元での就職を希望する者が非常に多く、地元企業との連携・就職先開拓が必要である。

今後も毎年 95%以上を保てるよう、丁寧な指導に努めていく。今後はより一層就職難が見込まれる為、1 年次から自己分析や業界分析等に触れさせ、迷いのない就職活動が出来るよう努めていく。

viii　教職員の概要

①教職員数

	常勤		非常勤	
	男	女	男	女
校長		1		
教員	1	6		
講師		2	3	10
計	1	9	3	10
助手		1		
事務職員		3		
その他職員	1			
計	1	4		
総合計	2	13	3	10

※令和４年５月１日の教職員数を記載している

※教員の人数は、専修学校設置基準が定める要件を満たす者を算定している

②教職員研修

【ファッション業界研修】

令和４年　６月　工場研修（白石ポリテックス工業、東京ファッション）

【職場意識向上研修】

令和４年　８月　ペーパーレス化、DX 化研修（リコージャパン）

令和４年　１０月　キャリア講習

【キャリア指導向上研修】

令和５年　１月　租税講習

ix　施設・設備

①　大規模修繕・購入を行った施設・設備

・令和４年３月に起きた大型地震で損害が出た廊下の壁面を修繕した。
　また、第２校舎の耐震診断や耐震補強等計画的に行っていく予定である。

x　地域貢献・社会貢献

SDGs への取り組みが重要視されている中で、本校では以下のテーマを強化している。

３．すべての人に健康と福祉を

４．質の高い教育をみんなに

５．ジェンダー平等を実現しよう

１１．住み続けられるまちづくりを

１２．つくる責任つかう責任

１３．気候変動に具体的な対策を

１７．パートナーシップで目標を達成しよう

上記のゴールへの取り組みを対外的にも発信していく。

Ⅲ　めるへんの森幼稚園

i　教育目標

無心にとことん、あそびこんでいける環境をつくります。
いのちの根っこを養う幼児期に、たっぷりと「あそぶ」行為の奥から、何でもやってみようという意欲を伸ばします。
わくわくドキドキする夢中さ、何かをやりとげた時の喜び。
めるへんの森での体感のひとつひとつから、いきいきと感受する心がひらき、生きぬこうとするチカラが健やかに培われます。
１、心も身体もたくましい子を育てる
思いっきり夢中になる体験が、心身にのびやかさをもたらします。
２、周りとのつながりから、思いやりの心を培う
友だちや先生、虫や草花、すべての生き物たちとのつながりの中から、
弱さや痛みを感じる思いやりのある優しい心を育てます。
３、自然の中で五感を伸ばす
太陽のあったかさや風のここちよさ、草や土のにおい。
周りの自然ゆたかな環境の中から、発見、驚き、感動する心を育てます。
４、感受性と想像力を養う
物語を聴く、読む、演じてみる、うたう、描く、思いを伝える。
心身で表現する歓びや創造力を育みます。
「与える教育」ではなく、自ら伸びようとする力を引き出すことにつとめます。
子どもたちみんなの中に宿る、生の可能性を伸展させていきたい、
それがめるへんの森幼稚園の希いです。

ⅱ　募集人員

年齢区分	満 3 歳	3 歳	4 歳	5 歳	計
募集人員	若干名	80	10	若干名	90

ⅲ　学級別在園児数

令和 4 年度

学級名	3 歳児		4 歳児		5 歳児		合計
性別	男	女	男	女	男	女	
ひかり組	13	10					23
かぜ組	13	10					23
ゆめ組	13	10					23
いずみ組			16	15			31
もり組			16	16			32
ほし組			16	15			31
おか組					22	15	37
にじ組					22	15	37
合計	39	30	48	46	44	30	237

※令和 4 年 5 月 1 日現在の数値であり、学校基本調査(文部科学省)の数値と一致する。

令和 5 年度

学級名	3 歳児		4 歳児		5 歳児		合計
性別	男	女	男	女	男	女	
ひかり組	12	12					24
かぜ組	10	13					23
ゆめ組	11	13					24
いずみ組			20	18			38
もり組			20	17			37
ほし組					16	15	31
おか組					16	15	31
にじ組					17	14	31
合計	33	38	40	35	49	44	239

※令和 5 年 5 月 1 日現在の数値であり、学校基本調査(文部科学省)の数値と一致する。

ⅲ　教育の充実

別添資料のとおり

ⅳ　教職員の概要

	常勤		非常勤	
	男	女	男	女
園長		1		
主幹教諭		1		
教諭		12		
講師				10
計		14		10
事務職員				1
運転手			4	
その他職員	2			4
計	2	0		
総合計	2	14	4	15

令和４年度採用２名

ⅷ　施設・設備

①　大規模修繕・購入を行った施設・設備

・防犯に係る正門～駐車場の整備

・ホールステージの階段の修繕

②　令和５年度の修繕予定箇所

・園舎２Ｆ４教室の水道入替

・ホール設置グランドピアノ買い替え、遮光カーテン、ステージ緞帳交換

③　今後の予定

・園舎 LED 化（現状１/３のみ LED）

・外壁修繕

・教室整備

Ⅳ　財務の概要

別添資料のとおり